

2. 鹿児島市立病院の沿革

昭和15年 4 月	鹿児島市立診療所発足 初代所長 松本正己医博 紀元2600年事業として鹿児島市社会事業協会経営の実費診療所を買収して市立診療所とする。(病室約20人収容) 南林寺町1番地の診療所を本所とし、武町に支所をおく。
昭和16年 4 月	武町支所を閉鎖
昭和20年 4 月	鹿児島市立病院に改称 初代病院長 松本正己医博 トラホーム診療所、尾畔(伝染)病院を合併し、病院事業を再編成する。
6 月	鹿児島大空襲により病院全壊 民間病院(上竜尾町野元医院)を借用して診療を継続
7 月	野元医院空襲により焼失
8 月	尾畔(伝染)病院にて診療を継続、その後更に鹿児島市役所の一隅に仮診療所を開設
12 月	佐々木武男医博 第二代病院長に就任
昭和21年 7 月	各科診療を開始(内科、外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科)
9 月	鹿児島市尋常小学校跡地(山下町)に病棟を建設(病床数50床)、診療を開始
昭和22年 7 月	歯科を開設 診療科目 6 科
昭和23年 5 月	小児科を開設 診療科目 7 科
9 月	放射線科を開設 診療科目 8 科
10 月	加治屋町に病院移転完了、診療を開始 医療法第7条による病院開設許可 病床数160床 医師修練病院に指定
昭和25年 4 月	皮膚泌尿器科を開設 診療科目 9 科
10 月	許可病床数104床(一般80床、結核24床)
昭和26年 3 月	入院患者への完全給食を実施
6 月	許可病床数123床(一般91床、結核32床)
昭和27年 4 月	市立病院附設准看護婦養成所を開設
5 月	許可病床数196床(一般91床、結核105床)
7 月	鹿児島市立産院を併設
9 月	許可病床数210床(一般105床、結核105床)
昭和28年 4 月	尾畔病院の所管を保健所に移管 中央材料室を設置
昭和29年 4 月	結核病棟に完全看護を実施
12 月	許可病床数276床(一般105床、結核171床)
昭和30年 2 月	許可病床数290床(一般135床、結核155床)
昭和32年 8 月	総合病院としての承認を受ける コバルト60による治療開始
9 月	許可病床数314床(一般159床、結核155床)
昭和33年 8 月	市立病院附設准看護婦養成所を閉鎖
10 月	基準看護及び基準給食を開始
12 月	許可病床数302床(一般164床、結核138床)
昭和35年 3 月	第一期病院改築工事(1号館)着工
9 月	短期人間ドックを開始
昭和36年 3 月	許可病床数360床(一般222床、結核138床) 第一期病院改築工事(1号館)完成 第二代病院長 佐々木武男退任
4 月	上高原勝美医博 第三代病院長に就任
6 月	「鉄の肺」を設置
昭和37年 3 月	第二期病院改築工事(2号館)着工
6 月	物療室を開設
11 月	妊婦ドック指定病院に指定
昭和38年 1 月	許可病床数360床(一般260床、結核100床)
2 月	第二期病院改築工事(2号館)完成
4 月	市立産院本院内に移転(20床) 許可病床数380床(一般260床、結核100床、産院20床)
6 月	基準寝具を実施
昭和39年 3 月	尾畔(伝染)病院新築(伝染60床)、城西病院と改称

	4月	地方公営企業法の財務規定等適用
	5月	県下初の新生児血交換（R h マイナス）に成功
	7月	救急病院の指定を受ける
昭和40年	4月	麻酔科を設置 診療科目10科 中央手術室を設置
昭和42年	4月	リニアックによる治療を開始
	7月	脳神経科を開設 診療科目11科
	12月	基準改正に伴い、一般病棟に一類看護、結核病棟に三類看護を実施
昭和43年	3月	許可病床数410床（一般290床、結核100床、産院20床）
	4月	頭部外傷救急センターを設置（病床数30床）
昭和44年	1月	第三内科（循環器科）を開設 診療科目12科
	4月	地方公営企業法の全部適用とする 上高原勝美 初代病院事業管理者に就任 鹿児島市立病院労働組合結成
昭和45年	1月	第一次病院整備事業構想決定
昭和46年	3月	許可病床数470床（一般350床、結核100床、産院20床） 頭部外傷救急センター 20床増床（救急ベッド50床に） がん診療施設用として40床増床 第一次病院整備事業本館建築着工 第一次病院整備事業 2号館 5, 6階増築完成
昭和47年	3月	患者治療及び浴用として温泉掘削 深さ747m、泉質弱アルカリ食塩泉、温度摂氏49度
	4月	医師法に規定する臨床研修病院の指定を受ける
	5月	歯科に口腔外科を設置
	11月	第一次病院整備事業本館高層部完成
	12月	皮膚泌尿器科を皮膚科、泌尿器科に分科 診療科目13科
昭和48年	4月	中央研究検査室、中央放射線室を設置 病棟看護婦の二・八制勤務完全実施 一般病棟を特類看護に、結核病棟を一類看護に変更
	5月	新患受付、外来部門レセプト作成業務を民間へ委託 外来患者診療時間を原則として午前診療とする
	9月	頭部外傷救急センターを脳疾患救急部に改組 第一次病院整備事業本館低層部完成
	10月	結核病床60床を一般病床へ転床 許可病床数470床（一般410床、結核40床、産院20床）
	11月	第二内科（消化器科）、整形外科を開設 診療科目15科
昭和49年	4月	鹿児島市立高等看護学校開校（三年課程、1学年30人） 2号館の1, 2, 4階を高等看護学校へ
	5月	いこいの森完成
	6月	人工透析部を設置
	10月	中央カルテ管理室を設置
昭和50年	1月	入院部門レセプト作成、基金請求、診療案内及び計算補助業務を民間委託
	7月	不妊クリニックを開始
昭和51年	1月	五つ子（山下ベビー）誕生（男子2人、女子3人 体重990g～1,800g）
	4月	一般病棟を特二類看護に、結核病棟を特一類看護に変更
	11月	五つ子プロジェクトチーム、第27回南日本文化賞受賞 プロジェクトリーダー、産婦人科部長 外西寿彦
昭和52年	4月	城西病院（伝染病院60床、旧尾畔病院）の運営について市と覚書を締結し管理運営を 本院において受託する
	8月	コンピューター付X線頭部断層診断システムを導入
	10月	第二次病院整備事業（3号館）着工
昭和53年	8月	院内を禁煙とし、本館1, 2階待合ホールに喫煙コーナーを設置
	9月	第二次病院整備事業完成
	11月	中央図書室を設置 脳疾患救急部を脳疾患救急センターに改称 新生児センターに40床増床 許可病床数510床（一般450床、結核40床、産院20床）
	11月	周産期医療センター（新生児センター、母子保健指導部）を設置
昭和54年	2月	産婦人科病棟に周産期医療センター（分娩センター）を設置

	4 月	分娩センターに20床増床 許可病床数530床（一般470床，結核40床，産院20床）
	8 月	理学療法室の整形外科所管を解き，中央理学療法室に改組する 中央回復室を設置
	9 月	第三次病院整備事業（4号館）着工
	11月	I C Uに9床，C C Uに2床を増床 許可病床数541床（一般481床，結核40床，産院20床）
昭和55年	3 月	五つ子誕生（男子2人，女子3人，体重1,400g～1,975g）
	4 月	コンピューター付X線全身断層診断装置導入
昭和56年	3 月	第3次病院整備事業（4号館）完成
	4 月	周産期医療センター（新生児部門）に20床増床 許可病床数561床（一般501床，結核40床，産院20床）
昭和57年	1 月	電算システム導入に伴う電気設備その他工事竣工
	4 月	薬品在庫管理電算システム導入
	8 月	医事業務（入院）電算システム導入
昭和58年	3 月	医事業務（外来）電算システム導入 慈愛の像除幕式 看護婦寄宿舍新築完成
	5 月	小児科に50床増床 許可病床数611床（一般551床，結核40床，産院20床）
昭和59年	4 月	病理研究検査室を設置
	7 月	第三内科（循環器科）24時間救急体制発足
	11月	中国長沙市研修生第一回受入れ（趙 国祥，何 国強）
昭和60年	1 月	内科を内科，消化器科，循環器科に分科 形成外科を開設 診療科目16科 救命救急センターを設置 30床増床 許可病床数641床（一般581床，結核40床，産院20床）
	3 月	上高原勝美 初代病院事業管理者退任
	4 月	時任純孝 第二代病院事業管理者に就任
	5 月	南九州初の腎臓移植を行う 東京女子医科大学腎センターの太田和夫教授の指導を受け，伊集院一成外科科長ら医師15人，麻酔科4人，看護婦8人で構成するグループが無菌手術室で実施
	6 月	栄養管理業務の一部を電算化
	11月	病理研究検査室に電子顕微鏡を導入 中国長沙市研修生第二回受入れ（符 嶺華，余 暑純）
	12月	第二例目の腎臓移植手術を本院スタッフのみで実施
昭和61年	4 月	入院患者給食の夕食を6時給食とする
	7 月	中国長沙市研修生第三回受入れ（何 小蓐，唐 元萍） 鹿児島市立病院友好訪問団 長沙市を訪問 団長 時任院長 外3人 期間7.28～8.4
	8 月	日帰り人間ドックを開始
	10月	入院患者面会時間を変更（午後3時から午後8時まで） 死体腎移植組織協力病院の指定を受ける（社）ジン移植普及会）
	11月	自治体立優良病院の表彰を受ける 全国自治体病院開設者協議会，（社）全国自治体病院協議会
昭和62年	2 月	中国長沙市研修生第四回受入れ（王 一欣，陳 斉国）
	6 月	病院駐車場を有料とする 病院検査及びカルテ管理を電算化 九州初の体外受精に成功～産婦人科（伊集院秀明，寺原賢人，榎園祐二，堂園光一郎，楠元博彦の医師スタッフ）
	10月	中国長沙市研修生第五回受入れ（黄 閔，張 艶青）
昭和63年	1 月	死体腎移植を実施
	4 月	小児外科を開設 診療科目17科
	5 月	医療相談コーナーを設置
	7 月	中国長沙市研修生第六回受入れ（馮 飛，孫 長立）
	9 月	鹿児島市立病院友好訪問団 長沙市訪問 団長 大司総看護婦長 外4人 訪問期間9.28～10.9
平成元年	4 月	心臓血管撮影装置導入
	5 月	麻酔科 外来診療開始

	10月	救命救急センター棟等増改築工事着工
平成2年	3月	中国長沙市研修生第七回受入れ（戴 月梅，張 憲南）
	4月	オーダーリングシステム一部（処方オーダー）稼働開始
	11月	救命救急センターを救急部に改称
平成3年	2月	中国長沙市研修生第八回受入れ（彭 敏球，謝 宏）
	4月	救命救急センター棟完成
		救命救急センター後方ベッドとして20床増床
		許可病床数661床（一般601床，結核40床，産院20床）
	10月	救急新体制本格稼働
平成4年	1月	中国長沙市研修生第九回受入れ（張 莉，王 敏）
	3月	時任純孝 第二代病院事業管理者退任
		MRI導入
	4月	外西寿彦 第三代病院事業管理者に就任
平成5年	3月	体外衝撃波結石破碎装置導入
	4月	中国長沙市研修生第十回受入れ（黄 紅光，王 西香）
	7月	外西寿彦 第三代病院事業管理者逝去
		武 弘道 第四代病院事業管理者に就任
		5号館着工
	8月	8.6豪雨災害
	9月	13号台風災害
平成6年	3月	5号館完成
	4月	第2，第4土曜日の外来診療を休診とする。
		鹿児島市立病院併設伝染病棟供用開始（20床）
		許可病床数681床（一般601床，結核40床，伝染20床，産院20床）
		外西文庫開設
	5月	特三類看護へ移行（354床）
	8月	防潮施設整備工事完成
	10月	特三類看護へ移行（579床）
	11月	立体駐車場（第三駐車場）完成（111台収容）
平成7年	1月	阪神・淡路大震災医療活動応援隊第一陣派遣
	2月	阪神・淡路大震災医療活動応援隊第二陣・第三陣派遣
	3月	高気圧酸素治療装置導入
平成8年	1月	全土曜日の外来診療を休診とする
	3月	骨密度測定装置導入
平成9年	1月	給与管理システム導入
	2月	血管造影撮影装置更新
	3月	高気圧酸素治療装置増設，全身用X線コンピュータ断層診断装置増設
	4月	病院モニター制導入
		口腔外科を歯科口腔外科へ名称変更，リウマチ科を開設，診療科目 19科
		院内学級設置
	5月	基幹災害医療センターの指定
	10月	財務会計システム導入
平成10年	5月	自治体立優良病院の自治大臣表彰を受ける
	7月	心臓血管外科を開設 診療科目20科
平成11年	4月	感染症病床6床設置
		許可病床数667床（一般601床，感染6床，結核40床，産院20床）
平成12年	2月	外来待合所喫煙全面禁止
	10月	周産期医療センター（新生児部門）に20床増床
		許可病床数687床（一般621床，感染6床，結核40床，産院20床）
平成13年	2月	新生児専用ドクターカー導入
	7月	武 弘道 第四代病院事業管理者退任
		谷口良康 第五代病院事業管理者に就任
平成14年	9月	中央回復室を中央集中治療室に改称
平成15年	3月	リニアック治療装置更新
	7月	全国自治体病院協議会九州地方会議開催
	10月	自動再診受付機・診療費自動精算機稼働開始
		県内初（九州2例目）脳死下での臓器提供
平成16年	4月	新医師臨床研修制度発足
		ME機器中央管理室を設置

平成17年	3月	電子顕微鏡システム更新
	7月	ホルミニウムレーザー装置導入 谷口 良康 第五代病院事業管理者退任 上津原甲一 第六代病院事業管理者に就任
	10月	電算システム更新 総合血液学検査装置更新
平成18年	3月	体外衝撃破碎装置更新 鹿児島市立高等看護学校閉校
	4月	後期臨床研修制度整備 市立病院あり方検討委員会設置
	10月	第45回全国自治体病院学会開催 物流センター開設
	11月	救命救急センター内C T装置導入
	12月	新生児外来開設 臨床心理室開設
平成19年	1月	発達支援集中治療室（D I C U） 10床開設 新生児集中治療室（N I C U） 4床増床 小児科看護7：1体制導入
	4月	組織変更（総務課計画係の設置等） 医療安全管理室、医療連携室の設置 10：1看護体制導入 鹿児島市立病院基本構想・基本計画策定委員会設置
	7月	X線C T装置（64列・16列）に同時更新
	8月	母体・胎児集中治療室（M F I C U）（6床）開設
	10月	S C U（3床）開設 臨床化学免疫連結型自動分析装置 1台更新
	11月	総合周産期母子医療センター開設
平成20年	1月	脳卒中センター開設
	3月	鹿児島市立病院基本構想・基本計画策定 臨床化学免疫連結型自動分析装置 1台更新
	5月	新病院建設プロジェクト会議設置
	6月	カリフォルニア大学アーバイン校医学部との交換留学制度協定締結
	9月	小児科外来移転開設
平成21年	1月	鹿児島市立病院基本設計プロポーザル審査委員会設置
	3月	画像情報システムP A C S導入
	4月	組織変更（病院建設室の設置等） 外来化学療法室の設置 D P C導入 D M A T指定病院
	5月	新型インフルエンザ発熱外来設置（平成21年8月休止） 自治体立優良病院の会長表彰を受ける
	10月	乳房用X線診断装置更新
	11月	注射薬自動払出システム導入
	12月	ウォークイン外来開設
平成22年	2月	磁気共鳴画像診断装置3.0Tに更新
	3月	新生児専用ドクターカー更新 新病院基本設計
	4月	市立産院を廃止し、一般病床を20床増床 許可病床数（一般641床、感染6床、結核40床） 敷地内全面禁煙へ移行
	5月	自治体立優良病院の総務大臣表彰を受ける
	7月	全国自治体病院協議会九州地方会議開催 病院機能評価受審
	11月	病院機能評価認定 頭部用X線C T装置導入
平成23年	3月	東日本大震災被災地へD M A TおよびJ M A T派遣
	4月	地域がん診療連携拠点病院指定
	6月	新病院実施設計
	7月	鹿児島県小児救急医療拠点病院指定

	10月	鹿児島市医師会病院との大規模災害発生時の相互支援協定締結
	12月	鹿児島県ドクターヘリ基地病院として運航開始
平成24年	1月	リモートアフターローディング治療装置更新
	2月	新病院建設事業用地購入（上荒田町37番1）
	7月	院外処方への移行
	9月	新病院建設工事着工
		宮崎県立宮崎病院との災害時における医療機関相互応援に関する協定締結
	10月	G C U（6床）開設
	12月	心臓血管造影装置の更新
平成25年	3月	鹿児島市病院事業経営計画策定
	4月	九州7県の自治体病院との災害時における医療機関相互応援に関する協定締結
	6月	7：1看護体制導入
	7月	上津原甲一 第六代病院事業管理者退任
	8月	坪内 博仁 第七代病院事業管理者に就任
	12月	電子カルテシステムの導入
平成26年	1月	全身用X線C T装置の更新
	3月	双胎間輸血レーザー装置導入
	4月	看護科二交代制勤務導入
	10月	鹿児島市高度救急隊（ドクターカー）基地病院として運用開始（平日日中のみ）
平成27年	3月	新病院完成
		全身用X線C T装置（80列・320列）、X線C T組合せ型血管造影装置、X線C T組合せ型核医学用診断装置、血管造影撮影装置、手術画像配信システム、MRI装置（1.5T）、リニアック治療装置導入、人工心肺装置導入
	4月	完成記念式典
	5月	移転開院
		診療科再編、精神科新設、許可病床数574床（一般568床、感染6床）
		入退院センター設置
	7月	心臓血管外科開心術開始
	8月	初診紹介患者の予約制の拡充
	10月	旧病院解体工事着工
		病院機能評価3rdG：Ver1.0受審
	11月	鹿児島大学医学部・歯学部附属病院との連携協定締結
平成28年	2月	鹿児島市高度救急隊（ドクターカー）の運用拡大（平日と土曜日の日中）
	3月	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科との連携講座設置に関する協定締結
		人間ドックを廃止
		病院機能評価3rdG：Ver1.0認定
	4月	クレジットカード収納の導入
		熊本地震被災地へDMATおよびJMAT派遣、ドクターヘリによる新生児等搬送、新生児等受け入れ
	7月	紹介状のない初診の外来患者に対し初診時選定療養費制度を導入
	8月	熊本地震に伴う熊本市市民病院看護師等の受入れ
	10月	内視鏡下手術支援ロボット導入
平成29年	2月	旧病院解体工事完了
	3月	鹿児島市病院事業経営計画見直し
		新公立病院改革プラン策定
		病院跡地売却
	4月	先進内視鏡診断・治療センター開設
	8月	鹿児島市高度救急隊（ドクターカー）の運用拡大（全日日中）
		特定集中管理料2（スーパーICU）算定開始
		平成29年度栄養関係功労者厚生労働大臣表彰受賞
	10月	X線C T組合せ型ボジトロンC T（PET-CT）装置導入
	11月	体外式結石破碎装置更新
平成30年	3月	乳房X線撮影装置更新
		地域医療支援病院に承認
		DPC特定病院群の初指定
		BCP（災害時の業務継続計画）の策定
	8月	外国医師臨床修練制度に基づき、脳神経外科にてボハラ・マノズ医師（ネパール）が臨床修練を開始（令和元年6月修了）
平成31年	2月	鹿児島市高度救急隊（ドクターカー）の運用拡大（平日22時まで）
		SPD物流システム導入

3月	Web版処方チェックシステム導入
4月	糖尿病・内分泌内科，血液・膠原病内科，腎臓内科，腫瘍内科の開設 (診療科目：全32科) 神経内科を脳神経内科へ名称変更 総合診療部，緩和ケアセンター開設 給食調理業務委託の開始
令和元年8月	入退院センター：術前支援室の運用開始
令和2年2月	MR I装置(3.0T)(当院3台目)の導入
4月	地域がん診療連携拠点病院(高度型)の指定 会計年度任用職員制度導入 長崎クルーズ船新型コロナウイルス感染症クラスターにDMAT派遣
6月	心臓血管外科小児開心術開始
10月	注射薬自動払出システム更新 SCU 3床増床 外来化学療法室を拡充(7床増床し，診療室を新たに整備) 病院機能評価3rdG：Ver2.0受審
11月	患者用Wi-Fi導入 電子カルテシステム更新
令和3年1月	麻薬管理システム導入 勤務管理システム導入
2月	特定行為研修指定研修機関の指定 MR I装置(3.0T)の更新 病院機能評価3rdG：Ver2.0認定
令和3年4月	がん治療・支援センター開設 歯科医師臨床研修単独型プログラム開始 看護師特定行為研修センター開設
5月	内視鏡下手術支援ロボット(2台目)の導入
8月	治療計画用CT装置の更新，スポットチェックシステムの導入
令和4年1月	全身用CT装置(320列)の更新
3月	第2期鹿児島市病院事業経営計画策定 鹿児島市立病院再整備計画策定
令和5年1月	透視装置の更新および移設，情報端末装置の導入
2月	検体搬送システム新設
3月	心臓血管撮影装置の更新 回診用X線装置の更新と手術室用移動式X線透視装置の増設
4月	リハビリテーション科の開設(診療科目：全33科) 組織変更(感染制御部の設置)
5月	病院再整備基本設計
令和6年1月	能登半島地震被災地へDMATおよびJMAT派遣 一般撮影装置(X線撮影室1室)更新
2月	iPhoneの導入
3月	ISO15189：2012認定(臨床検査部・病理部) 第2期鹿児島市病院事業経営計画(令和5年度改訂版)策定 救命救急センター充実段階評価S評価初取得 リモートアフターローディング治療装置(RALS)や新生児用ドクターカーの更新 音声入力アプリの導入，病院再整備実施設計
4月	組織変更(病院再整備室，DX推進室の設置) 救急救命士配置
7月	既存設備移設等工事着工
8月	医療用X線装置(O-arm術中イメージングシステム+ナビゲーションシステム)の増設
令和7年3月	調剤進捗管理システムの導入，スマートオリエンテーションの導入
4月	組織変更(DX推進室をDX推進・経営情報分析室へ再編成) web初診予約システムの導入
5月	鹿児島県と「災害支援ナース」の派遣に関する協定を締結
9月	ISO15189：2022認定(臨床検査部・病理部) 血管造影X線診断装置の更新
令和8年3月	坪内博仁 第七代病院事業管理者及び第九代病院長退任 堀 剛 第十代病院長に就任
4月	佐野 輝 第八代病院事業管理者に就任